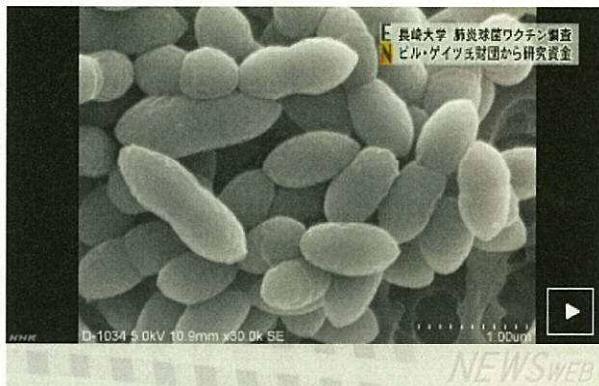


【NHK】長大 肺炎球菌ワクチンで調査

<http://www3.nhk.or.jp/lnews/nagasaki/5033583301.html?t=1447976725681>

▶長大 肺炎球菌ワクチンで調査



肺炎などの病気を引き起こし、発展途上国の子どもの主要な死因の1つとなっている「肺炎球菌」について、長崎大学はアメリカの財団から日本円でおよそ12億円の研究資金を受け、ワクチンの普及を促進するための大規模な調査をベトナムで行うことになりました。

肺炎球菌による病気は乳児や幼児のときに数回ワクチンを接種することで予防できますが、発展途上国では費用の高さから接種が見送られ、この菌による肺炎が子どもの主要な死因の1つとなっています。

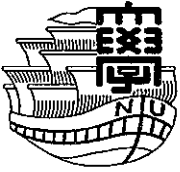
このため長崎大学熱帯医学研究所は、ワクチン接種のコストを下げるために接種回数を減らした場合でも従来通りの予防効果を得られるか、ベトナムで大規模な疫学調査を行って検証することになりました。

調査は、現地の3歳未満の子ども3万6000人余りについて、ワクチン接種の有無や回数と肺炎球菌の保菌率を4年間にわたって調べます。

調査にはアメリカの実業家ビル・ゲイツ氏の財団から日本円でおよそ12億円の資金提供を受けますが、この財団による日本の研究機関への10億円規模の提供は初めてだということです。

研究主任を務める長崎大学の吉田レイメント准教授は、「回数を減らしてもワクチン接種による予防効果があることを示し、多くの国でワクチン導入が進むよう努めたい」と話しています。

11月19日 20時15分



ゲイツ財団から支援12億円

長崎大 ワクチン調査

ベトナムで肺炎球菌研究

約1千名(約12億円)の支援を受け、ベトナムで小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数と効果の関係を調べる研究に乗り出すと発表した。世界保健機関は、1歳半までに3回のワクチン接種を推奨しているが、ワクチンが高価な途上国を念頭に、少ない接種での効果を調べる。

長崎大によると、ゲイツ氏の財団から大学の研究で億単位の支援を受けるのは日本で初めて。

研究はベトナム、英国、オーストラリアの研究機関と来年1月から4年間、ベトナム中部のニャチャン市で実施する。新たに生まれた子どもたちを3グループに分け、グループごとに1〜3回接種。接種しない1

長崎大は19日、米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏が設立した財団から

接種効果を大規模検証

小児用肺炎球菌ワクチン

長崎大熱研 ベトナムで1万3500人

長崎大は19日、小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数を1〜2回に抑えても効果があるかどうか検証する約1万3500人規模の大規模調査を、来年1月からベトナムで行うと発表した。米マイクロソフト創業者ビル・ゲイツ氏が設立した「ピル&メリンダ・ゲイツ財

団」が約12億円を助成する。長崎大熱帯医学研究所(熱研)によると、接種回数

の効果を検証する大規模調査は世界で初めて。主任研究者の吉田レイミント准

教授(小児感染症学)は「高価なワクチンの接種回数を減らせば発展途上国でも接

種しやすくなる。子どもの体への負担も軽減する」と話している。

世界保健機関(WHO)は小児用肺炎球菌ワクチンが十分な効果を得るために3回の接種を推奨している。吉田准教授は、大多数の人が肺炎球菌の免疫を持

つ「集団免疫」が地域で確立していれば、1〜2回の接種で効果があるという研究結果に着目した。

調査は来年1月から2019年末まで、熱研が研究拠点を置くベトナム中部のニャチャン市で実施。3歳未満の全ての子どもにワクチンを接種して集団免疫をつくった上で、新生児を三つのグループに分け、1歳までにそれぞれ3回、2回、1回ずつワクチンを接種。各グループの保菌状態や肺炎の発症数を比較して効果を検証する。

熱研によると、世界で年間約80万人の5歳未満児が重症の肺炎球菌感染症を発症し、死亡率は10〜15%と

いう。

長崎大によると、国内の大学や研究機関がゲイツ財団から大規模助成を受けるのは初めて。片峰茂学長は、世界の人々の健康に資する教育・研究機関を目指す中、世界的な財団から評価と支援を得られたのは大きな喜び」と話した。(松尾潤)

ベトナムでワクチン調査
長崎大肺炎用で来年から
長崎大学は19日、ベトナムで肺炎球菌ワクチンの効果を確かめるための大規模な調査を2016年から始めること発表した。3回推奨されている予防接種が、1回か2回で済むかどうかを確認するため、ベトナムのニャチャン市の3歳未満の小児を対象に集団によってワクチン接種の回数を変えて、免疫の効果を調べる。

【【KTN】 長崎大学がベトナムで肺炎球菌ワクチンの効果を調査へ

<http://www.ktn.co.jp/news/2015112244319/>

長崎大学がベトナムで肺炎球菌ワクチンの効果を調査へ

2015年11月22日 12:03

発展途上国の子供たちが肺炎球菌に感染するリスクを抑えようと、長崎大学はマイクロソフトの創業者ビル・ゲイツ氏の財団から支援を受け、ベトナムで摂取回数によるワクチンの効果を調査すると発表しました。

長崎大学は、肺炎球菌の感染症が流行しているベトナムで、来年1月から4年間子供向けのワクチン「PCV」の効果进行调查すると明らかにしました。世界では、毎年5歳未満の子供200万人が肺炎球菌に感染し、このうち4割が肺炎になり1割が亡くなっています。世界保健機関・WHOはワクチンを3回接種することを推奨していますが、値段が高く、途上国での導入は難しいのが現状です。

長崎大学・熱帯医学研究所 吉田レイミント准教授「3回じゃなくて2回のワクチン接種、もしかしたら1回でも集団免疫を維持することができれば、それでも十分な予防になる可能性があるとして今の研究を行うことになりました」

この調査は、マイクロソフトの創業者、ビル・ゲイツ氏の財団から、およそ12億円の助成を受けて行われ、長崎大学は、途上国での感染予防に貢献できればとしています。

読売新聞 P12

長崎大、肺炎ワクチン研究



肺炎球菌の研究内容について説明する吉田レイミント准教授(右)

少ない接種回数での効果検証

長崎大は、小児用の肺炎球菌 conjugate ワクチンの接種回数を抑えても効果があるかどうかを検証する研究を始める。ワクチンは高価で、少ない回数で効果が確認できれば、発展途上国の子どもが接種しやすくなり、死亡率の低下などにつながることを期待されている。(商榷子)

途上国の子ども救命期待

研究を担当するのは、同大熱帯医学研究所の吉田レイミント准教授(小児感染症学)。2016〜19年の4年間、ベトナム中部のニャチャン市に住む3歳以下の幼児と新生児計3万6500人を対象に実施。4グループに分け、0〜3回ワクチンを投与して保菌率の変化を観察する。

同大によると、ワクチンの導入前には年間、世界で1450万人の5歳未満児が肺炎球菌による感染症を患い、80万人余りが死亡。ワクチンの導入で感染を抑えることができるようになり、世界保健機関(WHO)は、1人当たり3回の接種を推奨している。しかし、3回の接種費用が100円近くかかるため、発展途上国や低所得国では普及が進んでいない実情があるという。

今回の研究は、米マイクロソフト創業者ビル・ゲイツ氏が設立した「ビル&メリンダ・ゲイツ財団」の助成約12億円を活用する。吉田准教授は回数が少なくても、3回と同じ効果があるか、WHOが推奨する回数を見直し、途上国の政府などが予防接種を導入することを促すことができる。この研究を重症化や死亡の減少につながる」と話している。